

第206回木曜会 秋の新宿外苑から新宿御苑の散歩

【いちょう並木】

黄金色に染まったトンネルを抜けて……。まるで黄色い絨毯を敷きつめたような、美しい青山通りから続く約300m、146本のいちょう並木は必見！

明治41年(1908年)に新宿御苑の在来木から採集したいちょうの種子を豊島御料地(現在の明治神宮内)で育て、樹高6m内外に成長していた1,600本より選ばれ植栽した。

青山口から円周道路まで9m間隔で植えられている。最高28.0m、幹回り2m90cmの大樹に育った。



【聖徳記念絵画館】

聖徳記念絵画館は、明治天皇・昭憲皇太后の御聖徳を永く後世に伝えるために造営された、神宮外苑のシンボルともいえる存在です。館内には、明治天皇・昭憲皇太后の御在世中の御事蹟を伝える大壁画(縦3m横2.5~2.7m)が、画題の年代順に展示されており、当時の出来事を時代を追って見ることができます。(別添えパンフレット参照願います)

【新国立競技場】



2020年の東京五輪・パラリンピックで開会式や閉会式、陸上競技、サッカーなどが行われる。1964年の東京オリンピック時に建設された〈旧国立競技場〉の意志を引き継ぎながら、21世紀にふさわしいスタジアムとして隈研吾の設計案に基づき、木をふんだんに使ったプランを実現している。大会後は各種スポーツ・文化関連イベントに使用される予定です。

【新宿御苑】

江戸時代に信州高遠藩主内藤家の屋敷があったこの地に、新宿御苑が誕生したのは明治39年のことです。皇室の庭園として造られましたが、戦後、国民公園となり、多くの方に親しまれてきました。広さ58.3ha、周囲3.5kmの庭園には、プラタナス並木が美しい整形式庭園などがあります。また、数少ないわが国の風景式庭園の名作とされています。

（菊花壇展）

菊が皇室の紋章と定められたのは、明治元年(1868)でした。このときから日本国民にとっては、皇室と菊花が直接的な関係を持つようになります。

宮内省は皇室を中心として菊を鑑賞する為に、明治11年(1878)に赤坂の仮皇居で初めての「菊花拝観」を開催しました。明治13年(1880)からは「観菊会」と名称が変更になりましたが、以後昭和11年(1936)年まで、戦争、震災、大喪、御大典などの年を除き、毎年開催されました。



「観菊会」は、明治22年(1889)まで赤坂仮皇居、以後昭和3年(1928)までは赤坂離宮で開催されましたが、赤坂離宮の展示場所が、昭和4年からは新宿御苑で開催するようになりました。